

キュリー夫人はどんな人？



放射性元素ポロニウムとラジウムを発見した人並外れた科学者であり、異なる2つの分野で2度ノーベル賞を受賞した最初の女性であり、初めて女性でソルボンヌ大学教授になった人です。さらに彼女はフランス国外生まれなのにパリのパンテオンに埋葬された最初の女性でもありました

彼女の先駆的な業績については公式の伝記で読むことができます。しかしさらに興味が湧くならこの超人的な女性を知るのに彼女の故郷であるワルシャワほど良い場所はありません。ここでは彼女がどのようにして自分の天職を見つけたのか、彼女の子供時代はどのようなものだったのか、そして彼女がどのような家庭で育ったのか学べます

ワルシャワの彼女と関係のある場所やその背後にある物語を探索すると思いがけず魅力的な発見があるでしょう。偉大なキュリー夫人の背後には家族や生きていた時代だけでなく彼女が直面しなければならなかった悲劇的な運命のねじれによって人格が形成された少女が立っています青春時代を過ごした街ワルシャワでキュリー夫人に会いに行きましよう



ご存知ですか？

自転車はキュリー夫人のお気に入りの交通手段でした。VETURILOステーションで自転車をレンタルしてキュリー夫人の足跡を辿ることもできます

生家 - ワルシャワ、マリア・スクウォドフスカ＝キュリー博物館 (Dom urodzenia - Muzeum Marii Skłodowskiej-Curie w Warszawie)



この史実がなければ新市街にあるこの集合住宅はワルシャワの重要な史跡として地図上に残らず数ある集合住宅の1つになっていただでしょう。1867年11月7日にここでマリア・スクウォドフスカは生まれました。この建物にはマリアの母親マリアンナ・プロニスワヴァが経営する女子寄宿学校がありました。彼女の父親ウワディスワフ・スクウォドフスキはワルシャワの中等学校の数学と物理の有名な教師でした。この末娘マリアが生まれて1年後に彼は男子中学校の副査察官の職を得てスクウォドフスキ家は新居に移りました



Freta (フレタ) 通り 16にキュリー夫人について語る世界で唯一の伝記博物館が設立されました。偉大な科学者の生涯と業績を展示するこの展覧会ではこのノーベル賞受賞者が実際に使っていた機器や物



品などをご覧ください。それらはキュリー夫人の個人的および仕事上の手紙、彼女が使った最後の机と父親の金時計、彼女の人生の様々な科学者との多数の写真、キュリー夫妻が使用した実験室の計測機器などです。ハーバート・フーバー大統領からキュリー夫人に贈られた象の置物や、ラジウム研究所を設立するための資金を受け取った革の財布にご注目ください



聖母マリア訪問教会 (Kościół Nawiedzenia Najświętszej Marii Panny)



この教会はワルシャワで最も古い教会の一つでかつてはスクウォドフスキ家の教区教会でした。幼いマリアとおそらく彼女の兄弟たちもここで洗礼を受けました。マリアの洗礼記録は今日まで残っていますマリーナ（家での呼び名）はスクウォドフスキ家の5人兄妹の末っ子です。彼女は幼少の頃彼女の世話をしていた姉ゾフィアと非常に仲が良くいつも一緒に時間を過ごしていました。マリアは生涯を通じてユゼフとプロニスワヴァとヘレナと親密な関係を保ちこの肉親たちから何度も貴重な支援を受けました言い伝えによると聖母マリア訪問教会は15世紀初頭に異教の聖堂の跡地に建てられました。そしてその100年後には特徴的なゴシック様式の塔が建てられその隣にはヴィスワ川と街の右岸部分の美しい景色を望むテラスもあります

• Przyrynek 通り2

ご存知ですか？
キュリー夫人の父親は経済的な事情に苦しみ子供たち全員に高額な高等教育を受けさせることができませんでした。そのような状況でキュリー夫人は妹のプロニャと約束をしました。キュリー夫人は家庭教師として働きプロニャがソルボンヌ大学で勉強できるようにお金を彼女に数年間与えていました。その後プロニャはキュリー夫人を助けることになり実際にそうしたのです



ヴィスワ川の断崖 (Skarpa wiślana)

ワルシャワは幸いにも破壊されずに残り常に洗練され続けているまさに建築の宝庫のような特徴のある街です。絵のように美しい旧市街には [...] 近くにはヴィスワ川が流れており川岸には広い大通りが整備されています。この地域には広大な公園が数多くあり広場や個人の庭園もあります。」
- キュリー夫人が娘イレヌに宛てた手紙から、1921年6月10日

キュリー夫人はヴィスワ川の断崖での子供時代の思い出をはっきりと覚えておりそこは彼女のお気に入りの散歩コースの一つでした。彼女は1932年にワルシャワを最後に訪れた際もそこを散歩しました。「この川には私にとってその本質さえ理解できない魅力がある」と彼女は当時書いています

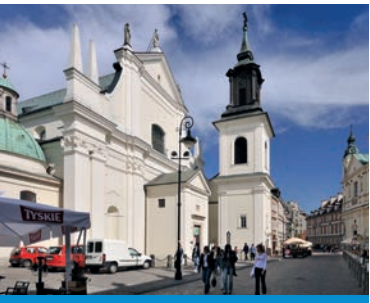
19世紀後半にワルシャワの断崖の下地域には建物が密集し川岸では活気に溢れた日常生活が営まれていました。ビール醸造所や運送会社もここにあり女性たちは水汲みや洗濯するために来たり、ヴィスワ川の両岸は建設者の名前にちなんでキェルベジ橋と呼ばれた新しく建設されたアレクサンドリスキ橋によって繋がっていました

現在ヴィスワ川沿いはキュリー夫人が見ていた風景には似ていません。特に夏のヴィスワ川のほとりは今も活気に満ちていますが主にレクリエーションの場となっています。都会風の河岸ビーチ、数多くのバー、野外コンサート、マルチメディアパークでの夜の噴水ショーは市民や観光客を魅了しています。そして彼女がとても愛したこの場所の断崖の上にはノーベル賞を受賞したキュリー夫人の記念碑が建っています



聖ヤチェク教会 (ドミニコ会) (Kościół św. Jacka (oo. Dominikanów))

キュリー夫人が生まれた場所からほんの数十歩のところにあるこの教会で少女だったマリアに初聖体拝領式が行われました。彼女はこの出来事が自分にとって素晴らしい経験だったと回想しています



彼女はこれから起こる出来事が彼女の信仰心を試すことになるとは思ってもいませんでした。最愛の姉ゾシャはチフスにかかり15歳で亡くなりました。また当時キュリー夫人の母親は急速に悪化する結核に苦しんでいました。高額な治療費と家族の熱心な祈りにもかかわらず彼女は亡くなりました。キュリー夫人は当時11歳でした

18世紀のこの教会はドミニコ会のために市壁の外に建てられました。1944年のワルシャワ蜂起でここは放棄軍の野戦病院になりました。それにもかかわらずドイツ軍は施設を爆撃し負傷者と病院職員を1000人以上殺害しました。教会は1968年に再建されました

• Freta 通り10

中央農業図書館 (Centralna Biblioteka Rolnicza)



ここには教育と科学研究の機関である産業農業博物館がありました。建物の裏の別館には実験室を備えた物理と化学ラボがありキュリー夫人は施設を管理していた従妹が親切だったおかげでそこで実験を行うことができました「もしワルシャワで化学分析をきちんと教えてもらっていなかったらラジウムを分離することはできなかったでしょう」と彼女は数年後に認めました現在その建物は中央農業図書館であり農業と自然科学に関する貴重な古い本や19世紀のポーランドの文献を所蔵しています

かつて実験室があった別館には庭園とヴィスワ川右岸の美しい景色が望める客室があります。

• Krakowskie Przedmieście 通り66, www.cbr.edu.pl



ご存知ですか？
キュリー夫人は1911年にポロニウムとラジウムの発見により2度目のノーベル賞を受賞しましたが化学に関しては独学でした。彼女自身は高校卒業後この分野で最も重要な本を読み、のちにクラコフスキェ・プシェドミェシチェ通りにあった研究所で実験を行いました。彼女はソルボンヌ大学で数学と物理学を学びました

ブリストルホテル (Hotel Bristol)

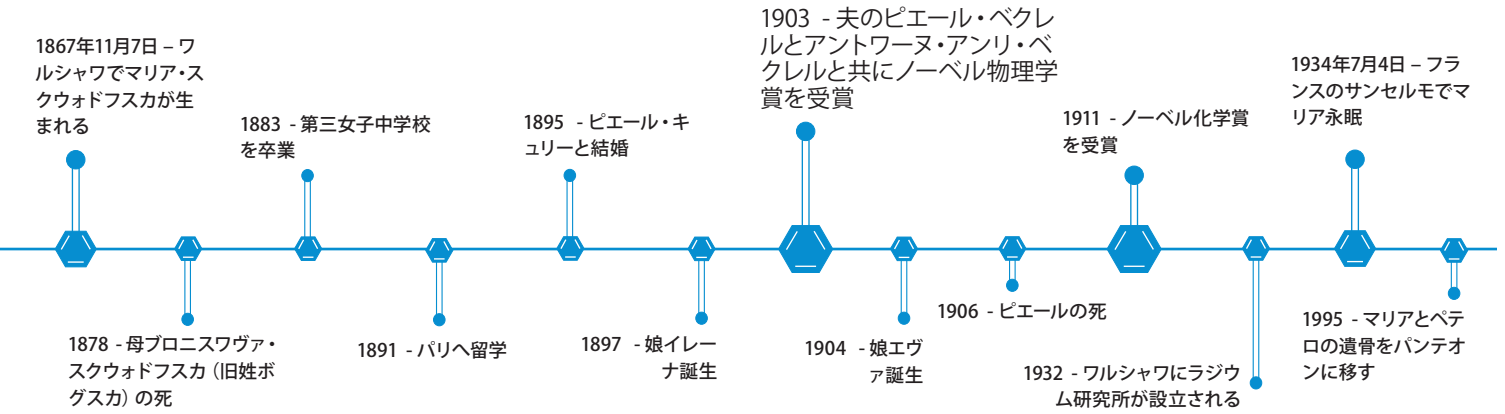


キュリー夫人が2度目のノーベル賞を受賞して1913年にワルシャワを訪れたときにワルシャワのエリート層から大変名誉なことであると歓迎されました。ブリストルホテルのラズベリールームでこの科学者の功績を称える晩餐会が開かれました。キュリー夫人の姉ヘレナ・サライは式典の様子を次のように振り返っていました。「多くの演説者のスピーチを聞きながらマリアは時々ノートに何かを書き留めていました。そして最後に皆の賛辞に感謝の意を表しました」。後になって分かったことですが彼女はスピーチを聞いていたのではなく数学の問題を解いていたのです。そしてうまく解けたので嬉しかったのです。」とヘレナは言い添えました。ブリストルホテルは当時ワルシャワで最も近代的でした。独自の発電所やセントラルヒーティングやクリスタルエレベーターを備え付けていましたこの建物は第二次世界大戦でもほぼ被害を受けずに残り1980から1990年代にかけて大規模な改修工事が行われましたホテルの宿泊客の中には政治家や文化界の著名人も少なくありません。エドヴァルド・グリーグ、パブロ・ピカソ、マレーネ・ディートリッヒ、ウディ・アレン、マーティン・スコセッシなどがここに泊まりました



キュリー夫人の日記

• Krakowskie Przedmiescie 通り 42/44





Warsaw
Tourism
Office

www.go2warsaw.pl
info@go2warsaw.pl



/go2warsaw

写真:表紙: ワルシャワのヴィスワ川の断崖の上にあるキュリー夫人の記念碑 / M. Deperas © City of Warsaw; キュリー夫人 (1867-1934) の肖像画 所蔵: Wellcome Collection; ソーの庭に
いるキュリー夫人とピーエル 所蔵: マリア・スクウォドフスカ＝キュリー博物館; 生家 - ワルシャワ、マリア・スクウォドフスカ＝キュリー博物館 / A. Nowak © ワルシャワ、マリア・スクウォドフスカ＝キュリー博物館, F. Kwiatkowski © City of Warsaw; 聖母マリア訪問教会 / F. Kwiatkowski © City of Warsaw; 高校卒業後のキュリー夫人と姉プロニスワヴァ・スクウォドフスカ 所蔵: マリア・スクウォドフスカ＝キュリー博物館; ヴィスワ川の断崖 / Ł. Kopeć © City of Warsaw; 聖ヤチェク教会 (ドミニコ会) / © City of Warsaw; 中央農業図書館 / T. Nowak © City of Warsaw; プリストルホテル / © F. Kwiatkowski © City of Warsaw; キュリー夫人の日記 / © ワルシャワ、マリア・スクウォドフスカ＝キュリー博物館; ワルシャワ大学 / F. Kwiatkowski © m.st. Warszawa; ヤブロノフスキ宮殿 / T. Nowak © City of Warsaw; 研究室で作業中のキュリー夫人とピエール・キュリー 所蔵: Wellcome Collection; ワルシャワ工科大学 / C. Warś © City of Warsaw; ワルシャワのキュリー夫人の記念碑 / © City of Warsaw; ラジウム研究所 / © National Digital Archives.

発行元: ワルシャワ観光局・Warsaw Tourism Office
ワルシャワ2025 (無料パンフレット)

ご存知ですか？

キュリー夫人は運転免許を取得した最初の女性の一人でした。彼女は第一次世界大戦中にX線装置を備えた車を運転するために免許をとりました。キュリー夫人が発明したこの「ちびキュリー」と呼ばれたレントゲン車は前線まで赴き負傷した兵士にX線検査を行ったのです

ワルシャワ大学

(Uniwersytet Warszawski)



「親愛なるエヴァへ、
「…」旅は順調に終わりワルシャワに時間通りに到着しました。駅では花束と大学の代表団が私を待っていました」- 1921年10月4日、エヴァ・キュリーへの手紙より

キュリー夫人は1921/1922年度の開講式に出席するために来ていました。そしてその2年前に彼女は実験物理学科の教授職を引き継ぐようお願いされていました。彼女は結局その件を断りましたがそのまま大学との交流は続けていました

1925年に彼女が物理学研究所を訪れたときは大勢の人が彼女の放射能研究に関する講演を聞こうとホールに入ろうとしましたが大学はキュリー夫人に哲学部名誉教授の称号を与えました

19世紀に学問を志す女性は彼女たちに対する固定観念に直面していました。女子学生を受け入れた大学はわずかでした。また彼女らは同僚から無視され軽蔑されることが多かったのです

ワルシャワ大学はポーランド最大でかつ最高の大学の1つです



• Krakowskie Przedmiescie通り 26/28,
www.uw.edu.pl

ヤブロノフスキ宮殿

(Pałac Jabłonowskich)

第二次世界大戦が勃発するまでこの宮殿にはワルシャワ市庁舎がありました

1924年にはそのワルシャワ市庁舎でキュリー夫人にワルシャワ名誉市民の証書が授与されました。そして1年以上後に行われた授賞式では財団設立の法案が読み上げられ、それはキュリー夫人がその施設建設のために尽力していたワルシャワのラジウム研究所の設立につながりました。そして最後に科学者キュリー夫人を称える晩餐会が開かれました

キュリー夫人はポーランドに戻ることはありませんでしたが頻繁にポーランドを訪れ愛情を込めてワルシャワを「愛するワルシャワ」と呼んでいました。彼女はポーランドに敬意を表して発見された元素にポロニウムと名付けました

宮殿は1944年のワルシャワ蜂起で被害を受け終戦後に取り壊されました。現在の形は1990年代の再建の結果です。戦前の正面は再建されましたが建物の外観と内装は現代的な特徴を備えています

• Senatorska 通り14/16



ご存知ですか？

キュリー夫人は彼女を称えるために開かれる公式のレセプションや晩餐会を好まず宣伝を避けようとしていました。彼女の友人であったアルバート・アインシュタインは彼女についてこう語りました。「世界中の人々の中でマダム・キュリーは名声に甘やかされない唯一の人だ」



ワルシャワ工科大学

(Politechnika Warszawska)



1925年にキュリー夫人が大学を訪問した際に教授らは彼女を温かく迎えその1年後には物理学部から名誉博士号が授与されました

2005年以来マクシミリアン・ビスкупスキ作のマリア・スクウォドフスカ・キュリーの記念碑が本館のホールにたっています

ワルシャワ工科大学はポーランドで最高峰の工科大学のひとつです。本館は1899～1900年にかけて建てられたもので建設には僅か2年かかりました。天井はガラス張りで美しい回廊のある中庭があります

• Politechniki 1広場,
www.pw.edu.pl

放射線検査室

(Pracownia radiologiczna)

「1912年に私は地元の科学協会と共同でワルシャワに放射線医学研究所を設立する機会を得ました。そしてその運営を任せられました。フランスを離れてポーランドに戻ることはできませんでしたが新しい施設で研究の準備をすることに喜んで同意しました」とキュリー夫人は1913年に開設されたポーランド初のワルシャワ放射線医学研究所について自伝に記しています

この研究所は第二次世界大戦勃発まで活動を続け科学的成果をあげました

現在この建物にはポーランド科学アカデミーの数学研究所があります。建物の正面にあるプレートにはこの場所の過去に関する情報が記載されています

• Sniadeckich通り 8 (旧Kaliksta通り 8)

ご存知ですか？

キュリー夫人と夫のピエール・キュリーはラジウムを得る方法の特許を取得しませんでした。彼らは科学の成果はすべての人に役立つべきだと信じておりそこから利益を得たいとは思っていませんでした



ラジウム研究所 (マリア・スクウォドフスカ＝キュリー国立腫瘍学研究所 (Instytut Radowy)



キュリー夫人は物理学と化学の分野で研究を行いラジウムの特性を利用して患者を治療する施設の開設に必死に努力しました。最初のラジウム研究所は1914年にバリに設立され2番目の研究所はキュリー夫人が亡くなる2年前の1932年にワルシャワに開設されました

1929年にキュリー夫人はラジウム研究所用のラジウム購入費としてアメリカ合衆国大統領ハーバート・フーバーから象徴的な小切手を受け取りました。それはアメリカ人女性とポーランド系移民の間で行われた募金によるお金でした

この研究所は戦時中も運営されていましたが1944年にナチスが容赦なく施設を制圧し病院を焼き払いました。現在は国立腫瘍学研究所がここで活動しています。マリア・スクウォドフスカ＝キュリー国立研究所の建物に隣接する庭にはキュリー夫人が植えた木が今も成長しています

旧研究所の柵のすぐ後ろにはマリア・スクウォドフスカ＝キュリー通りがあり広場の奥には科学者キュリー夫人の記念碑があります

• Wawelska 通り15,
nio.gov.pl.



キュリー夫人

(マリア・スクウォドフスカ＝キュリー)

私はワルシャワで生まれました

